

婦人	E
01	6
	5

風紀についての意識

— 38年調査結果概要 —

— 1963 —

労働省婦人少年局



人
査
3

風紀についての意識

— 38年調査結果概要 —

1. 実施の要領

(1) 目的 この調査は、昭和38年に実施した「風紀についての意識調査」とほぼ同様の内容であるが、今回はとくに集団生活の中にある青年男女が風紀や売春問題についてどのような考えをもっているかを把握し、今後の施策に資することを目的として行なった。

(2) 調査実施県 10県

(3) 調査実施箇所 26カ所

青年男女の集団生活の場として学校（男女共学の大学、女子大学）10、事業場（機械器具製造業、繊維工業、金融保険業）13、自衛隊（航空、海上、陸上）3をとりあげた。

(4) 調査対象者 満20才以上30才未満の未婚男女2,325人
但し回収数2,136人（男1,225人女911人）

なお、対象者は調査実施箇所毎に無作為抽出により選定。

(5) 調査期日 昭和38年2月（但し学生については5月）

(6) 調査方法 対象者自身の記入による。

(7) 調査事項

イ、風紀問題に関する基本的態度

ロ、売春問題に対する態度

ハ、売春防止法に対する態度

ニ、売春問題の将来に対する判断

2. 対象者の概要

(1) 年齢 20-21才が2割弱(男35%、女67%)、22-23才が3割弱(男27%、女23%)で対象者の7割強が20-23才の若い層である。

(2) 学歴 小学、新中学が2割強(男16%、女29%)、旧中、新高卒が3割(男33%、女27%)、短大、大学卒(在学中も含む)が5割弱(男50%、女44%)である。

なお、勤労者については、男子では旧中、新高卒が最も多く(45%)、ついで短大、大学卒(35%)となっており、女子では小学、新中学が最も多く(51%)、ついで旧中、新高卒(47%)となっている。

(3) 通勤、通学形態 「親元から」通勤、通学するものが4割強(男37%、女53%)、「寄宿舍、寮」にいるものが4割弱(男22%、女35%)で、他の1割強(男21%、女12%)は「下宿から」「親元以外の親族宅から」などである。

(4) 所属別分析状況 学生では、男子は理工学部(46%)が、女子は文学部(51%)が最も多い。ついで多いのは男子では文、政、商、経済学部(23%)、女子では家政学部(20%)である。勤労者では、男せいずれも事務取員が最も多く(男56%、女50%)、生産労働者(男28%、女49%)がこれにつき、管理的取員は男子に0.4%みられるのみである。自衛隊員では、士が最も多く(71%)、曹がこれにつき(27%)。

幹部は僅か2%である。

3. 調査結果の概要

以下は調査結果にあらわれた特徴的な傾向のいくつかをあげ、さらに、昭和36年に実施した「風紀についての意識調査」（以下「前回調査」とよぶ）と同一質問についての比較をこころみたものである。

なお、36年実施の前回調査は、問題地域（観音街、温泉観光地、駐留軍基地等）、住宅地域各渠それぞれノカ所、計全国22カ所に居住する20-59才の男女を無作為抽出し、訪問面接聴取法によつて実施したもので、今回の調査とは、調査地域、母集団、調査方法が異なっているため厳密な比較にはならない。

1) 風紀問題に関する基本的態度

イ、男女交際についての態度

男女の交際が自由に行なわれるようになった最近の傾向を「好ましい」と考えているものは男7割（71%）、女6割（62%）。「困ったものだ」と考えているものは男女いずれも1%にすぎない。他の3割前後（男26%、女34%）のものは「一概にいけない」と考えている。

「好ましい」と考えているものは、男女いずれも勤労者より学生に多く、勤労者のなかでは金融保険業に、女子学生のなかでは女子大生より男女共学の学生に多

い。

前回調査における同年令層と比較すると、「好ましい」と考えるものは前回（男 66%、女 60%）よりやや多い。

一方、実際に親しい異性の友人をもっていると答えているものは約半数（男 46%、女 50%）である。知り合った範囲は、学生では学校の友達、勤労者では職場の友達が最も多く、それぞれ半数近くをしめている。自営隊員ではその範囲は多岐にわたり特徴はみられないが、しいていえば「学校の友達」「通興先の知り合い」「近隣の知り合い」がそれぞれ $\frac{1}{2}$ 割前後で最も多い。

なお、男女交際に対する家庭の理解度をみると、 $\frac{3}{4}$ 割近く（男 74%、女 77%）が、家庭において男女交際や恋愛について自由に話し合えるふんいきが「ある」と答えている。

男女交際の態度について、さらに、街頭などで見ずしらずの異性に誘いかけられた場合（街売としてのものかん誘は除く）どうするかをみたところ、男子では「相手、ふんいき次第では同行する」（47%）と答えたものと「拒否する」「無視する」（45%）と答えたものが殆んど同率で、「相手、ふんいきを問わず同行

する」というものはノ%。すぎない。女子では9割近く(89%)が「拒否する」「無視する」と答えており、「相手、ふんいき次第で同行する」というものはノ割にみたない(7%)。また、「相手、ふんいきを問わず同行する」と答えたものは皆無である。

口婚姻外の性関係に対する態度

結婚前の純潔は「男も女も守るべきだ」と答えているものが男女割弱(36%)、サフ割(70%)、「守れたら守った方がよい」男女割弱(37%)、サエ割弱(16%)で、大多数のものが純潔を守った方がよいと考えている。しかし、なかには、「場合による」(男12%、サ6%)、「女は守るべきだが男は守らなくてもよい」(男6%、女3%)、「男も女も守らなくてもよい」(男3%、女1%)と答えているものが僅かずつではあるがみられた。

純潔を守った方がよいと考えているものは、男子より女子に多く、男子では学生に多く、女子の場合は学生と勤労者の間に差はみられない。

前回調査における同年令層と比較してみると、守った方がよいと考えているものは、前回「守るべきだ」男女7%、サ75%、「守れたら守った方がよい」男38%、サエ1%よりノ割前後少なくなっている。一方、「守らなくてもよい」と考えているものは前回と殆んど同率である。

夫が妻以外の女性と関係をもつことは「絶対にいけない」と答えているものが男も割強(54%)、女も割(73%)。「別にかまわない」と容認しているものは男5%、女1%でごく少ない。

妻が夫以外の異性と関係をもつことは「絶対いけない」と答えているものは男7割強(73%)、女8割強(82%)で圧倒的に多く、妻の異性関係に対する批判は夫の異性関係に対するそれよりさらにきびしい。

前回調査における同年令層と比較してみると、夫の異性関係についても妻の異性関係についても「絶対にいけない」と考えているものは男女いずれも前回(夫の女性関係では男74%、86%、妻の男性関係では男86%、女93%)より1割前後少ない。一方、「別にかまわない」と考えているものも前回よりやや少ないが、今回は、このほかに、あらたに加えた「場合による」という回答が夫の女性関係では男29%、女12%、妻の男性関係では男17%、女9%あった。

ハ性教育の場

性教育は「学校」でするのが一番よいと考えているものが4割強(男47%、女58%)で最も多い。ついで、学歴の高いものは「家庭」を、学歴の低いものは「社会」をあげている。

性知識をどこで得たかでは、男女いずれも「雑誌や書

籍から」と答えているものが割強(男 72% 、女 71%)で一位をしめている。ついで男子では「先輩や友人から」(47%)、「学校から」(19%)の順となっており、女子では「学校から」(37%)、「先輩や友人から」(22%)の順となっている。「親から」、「テレビ、ラジオから」、「映画から」と答えているものは男女いずれもごく少ない。

(2) 売春問題に対する態度

イ. 女子の売春行為に対する態度

女子の売春行為を「絶対にいけない」と否定しているものが男 43% 、女 $7割弱$ (65%)、「事情によってはやむをえない」と容認しているものが男 $4割弱$ (36%)、女 $2割弱$ (15%)で、男子の容認度は比較的高い。

容認しているものは、勤労者や自衛隊員よりも学生に少ない。

なお、やむをえない事情としては、男子では「自分の生活のためなら」(48%)を、女子では「病気や失業した父や親を養うためなら」(35%)を最も多くあげている。

前回調査における同年令層と比較すると、男子では女子の売春行為は「絶対にいけない」と否定するものは前回(55%)より割程度少なく、「事情によってはやむをえない」と容認するものは前回(31%)よりやや多くな

っている。女子では否定するものは全く同率であるが、容認するものは前回(22%)よりノ割近く少ない。

なお、この問題に対して「わからない」と答えているものが前回より今回に約ノ割多いことを参考までに付記しておく。

ロ、売春の相手方に対する評価

男子が売春婦と遊ぶことは「わるいことだ」と考えているものが男子で4割強(44%)、女子では7割強(73%)、別にわるいことではない(男ノ7%、女ノ%)、「場合による」(男26%、女ノ3%)と容認しているものが男子で4割強、女子で7割強で、売春の相手方に対する容認度は女子の売春行為に対するそれより男子の場合やや高い。

なお、女子の売春行為やその相手方になる男性に対する批判は前掲の結婚前の性関係に対するそれよりさらにきびしい。

容認しているものは勤労者や自衛隊員より学生に少ない。

前同調査における同年令層と比較すると、男子の女遊びを罪悪と考えるものは男女いずれも、前回(男63%、女79%)よりノ割程度少ない。一方「別にわるいことではない」「場合による」と容認するものは、女子では殆んど差がみられないが、男子では前回(28%)よりノ割程度多くなっている。

なお、この問題に対して「わからない」と答えているものが前回より今回に約1割多いことを参考までに付記しておく。

(3) 売春防止法に対する態度

売春防止法は「絶対に必要」と考えているものが男4割弱(35%)、女6割強(63%)、「ないよりまし」と考えているものが男3割弱(25%)、女1割強(14%)で、過半数のものが売春防止法は賛成であると考えている。「反対」と答えているものは男で3割弱(26%)、女で1割弱(6%)である。

反対の理由としては「法律で規制すべきでない」(男38%、女40%)、「守れない法律だから」(男22%、女26%)、「必要悪だから禁すべきでない」(男26%、女17%)等があげられている。

売春防止法を支持しているものは、勤労者や自衛隊員より学生に多い。また、売春防止法に反対しているものは、売春行為を否定しているものより、容認しているものに多い。

(4) 売春問題の将来に対する判断

約半数のものが(男45%、女55%)が売春行為は今後「なくなる」あるいは「少なくなる」とみている。他の男3割強、女2割弱のものは「かわりない」とみており、残りの男2割弱、女1割弱のものは「むしろふえる」とみている。

さらに、4つの社会的条件をあげて、そのそれぞれとの関係で売春行為の減少又は増加についての判断をみると、つきのとおりで、社会保障がもっと進んだら「なくなる」「りなくなる」と答えているものの割合が前回調査と同様第一位をしめている。

取締りを強化すれば —— 「なくなる」 「少なくなる」
男 51%、女 57%

「かわりない」 男 42%、女 29%

人権尊重の思想がもっと徹底すれば —— 「なくなる」 「少なくなる」
男 57%、女 65%

「かわりない」 男 30%、女 16%

社会保障がもっと進んだら —— 「なくなる」 「少なくなる」
男 77%、女 82%

「かわりない」 男 15%、女 7%

青少年の性教育を強化すれば —— 「なくなる」 「少なくなる」
男 45%、女 48%

「かわりない」 男 38%、女 21%



